

令和6年度（2024年度）第1回
函館市文化財保護審議会会議録

開催日時	令和6年（2024年）7月12日（金）10時00分～
開催場所	函館市役所 7階 特別委員会室
議 題	（１）会長・副会長選出 （２）報告 ア 文化財の保存整備について イ 文化財の活用について ウ その他 （３）協議 ア 函館市指定文化財の候補物件等について （４）その他
出席委員	川嶋稔夫委員 田中浩司委員 原さくら委員 干場大輔委員 松崎水穂委員 村田敦郎委員 安井肇委員 （計7名）
欠席委員	大下智一委員 中村和之委員 三上修委員 （計1名）
事務局	教育委員会 生涯学習部長 生涯学習部次長 文化財課長 文化財課文化財担当主査 文化財課施設管理担当主査 文化財課埋蔵文化財・世界遺産担当主査 文化財課主事 （計7名）

開 会

	○会議成立報告 委員 10 名中 7 名出席
	○事務局挨拶 生涯学習部長
	○出席者紹介 委員・事務局

議 事

(1) 会長・副会長選出

司会	議事(1)会長・副会長の選出だが、委員の互選により決定することとなっているが、意見はあるか。
松崎委員	事務局に原案を提示してほしい。
文化財課長	会長を田中委員に、副会長を川嶋委員にお願いしてはどうか。 《 各委員 承諾 》
司会	それでは、会長は田中委員に、副会長は川嶋委員にお願いしたい。
田中会長	《 会長就任挨拶 》
川嶋副会長	《 副会長就任挨拶 》

(2) 報告

ア 文化財の保存整備について

文化財課長	《 ア 文化財の保存整備（以下）について説明 》 ○ 特別史跡五稜郭跡 ○ 史跡四稜郭 ○ 日吉遺跡保護用地 ○ 南茅部縄文遺跡群 ○ 埋蔵文化財の保護 ○ 市内文化財保存修理 遺愛学院（旧遺愛女学校）本館・宣教師館、 大谷派本願寺函館別院 ○ 重要伝統的建造物群保存地区
田中会長	南茅部縄文遺跡群というのは、どの範囲を示しているのか。
文化財課 埋文・世界遺産 担当主査	平成 18 年策定の「函館市南茅部縄文遺跡群整備構想」により示されたもので、世界遺産に登録された大船遺跡と垣ノ島遺跡のほか、国宝土偶が出土した著保内野遺跡を合わせた総称となる。
村田委員	五稜郭の石垣の崩落範囲は一般の市民も入り込めるところなのか。
文化財課長	現在、崩落箇所周辺は通行禁止としている。
村田委員	現時点の石垣の危険箇所について、既に把握しているのか。

文化財課長	五稜郭については石垣の状態を調査して石垣カルテを作成しており、全体の９０％が調査済である。その中で優先度の高いものはピックアップしているが、定点調査などで現状を把握しながら、優先度に応じて対応している。
村田委員	今後、応急措置をすべき場所を特定し、すでに立入禁止の措置をとっているということか。
文化財課長	はい。危険な場所は立入禁止措置をとっている。
松崎委員	日吉遺跡保護用地の場所は、駐車場に転用されるにあたり整地されたのか。
文化財課長	管理用地としている部分の土地は、もともと砂利敷だったところである。遺跡として保存している部分の土地は、発掘調査の後、盛土をしてそのまま保存している。

イ 文化財の活用について

文化財課長	« イ 文化財の活用（以下）について説明 » ○ 世界文化遺産関連事業 ○ 特別史跡五稜郭跡 ○ 文化財課管理施設の状況 - 箱館奉行所，旧函館区公会堂，縄文文化交流センター， - 史跡垣ノ島遺跡・史跡大船遺跡，旧開拓使函館支庁書籍庫 ○ 松前神楽
松崎委員	五稜郭について、ゴールデンカムイやコナンなどの催物に伴い、関連施設の見学者が増えて非常に盛況とのことだ。五稜郭は公園として市民に親しまれているところだが、北海道新聞掲載の学芸員コラムでは、郷土史家である神山茂氏の「五稜郭を都市公園の観点に重点を置き経営すれば悔いを残す」との言を引き、特別史跡であることを忘れないよう皆で考えるべきとの提言が寄せられていた。 ８月に開催される、五稜郭の文化的価値を考える会の講演会・シンポジウムが市教委の共催になっているが、同団体は五稜郭の世界遺産登録を目指しており、これは市長の公約にも盛り込まれている。市教委は共催にあたり、今後の見通しをどう考えているか。
文化財課長	五稜郭は特別史跡であり、当然その価値を大事にしたいと考えている。今回の共催は、史跡の魅力向上と情報発信につながるものとして行うものである。世界遺産登録については、現在国内推薦の公募がされておらず、仮に目指すとしても景観保護のための土地利用制限が求められるなど、慎重に判断すべきものと考えているが、五稜郭の価値

	を広く皆さんに知っていただくという点では、市民団体と協力して進めていきたい。
松崎委員	世界遺産登録を目指すという市民運動に対して、市が文化財行政としての立場、スタンスを明示すべきではないか。
文化財課長	共催する市民団体に対しては、市教委としての考えをお話し、ご理解をいただきながら事業を進めているところである。
村田委員	函館の史跡においては、オーバーツーリズム問題は発生していないのか。
文化財課長	コナンのスタンプラリーのイベント等で長蛇の列が発生するなどしているが、指定管理者が動線を工夫するなどに対応している。
安井委員	四稜郭の焚火跡についてだが、五稜郭でも起きうることだ。注意の教育でなく、ポスターや広告を利用して文化的な意識を創生する、若い人たちが大事な史跡だということを理解してもらえるような教育、柔らかに楽しみながら感じてもらえる仕組みができれば良いと思う。
文化財課長	禁止事項みたいなものだけ出すのではなく、大事なものだと思ってもらえるような働きかけができないか考えていきたい。
安井委員	看板をいくら立てても景観が悪くなるだけだ。それより、明治を駆け抜けた人達とか、江戸末期で活躍した人達の魂が眠っているんだ、みたいなのが若い人達に伝わるといい。ちょっと、ひねりがある方が函館らしくて良いのではないか。
田中会長	啓発活動により、文化財をしっかりと守っていかなければならないという意識を色んな世代に浸透していくことは重要である。

ウ その他について

文化財課長	≪ ウ その他（以下）について説明 ≫ ○ 第70回文化財防火デー関連事業の実施 ○ 「長唄」の保持団体構成員の変更 ○ アイヌ遺骨・副葬品の取り扱い
松崎委員	遺骨や副葬品の地域返還やウポポイへの集約は、尊厳を守るため大事なことだが、道南地域のアイヌの人々の足跡が分からなくなることにならないか。南茅部町史や戸井町史には、アイヌ墓などの記述があるが、地域で暮らしている人自身がルーツについて語りたがらないこともある。市の行政として、埋蔵文化財を保管する立場として、記録が失われないようにしてほしい。 また、函館市には膨大な文化財があるのに、資料調査や整理、保管の体制が弱い。開拓の村への建物の移設など、地域から本物が失われ

	る事態を招かないよう、アイヌ、埋蔵文化財、歴史・建築など全部が揃っている函館が道南のリーダーとしてしっかり取り組むべきだ。
文化財課長	アイヌ人骨と副葬品の取り扱いについては、地域の団体である函館アイヌ協会とも情報共有し、意見を聞きながら進めている。ウポポイへの移管は、尊厳を守るために定めた市の方針に従って実施するが、当時の発掘調査の記録類は文化財課で保管し、文化財行政の中で組織的に引き継ぎ、公開していくものと考えている。 （体制に係る）人材確保については、貴重な文化財が多々あると認識しており、今後も適切な保存活用が図られるよう努めてまいりたい。
生涯学習部長	人口減少のなか、函館市の職員数もスリム化を図る必要がある。一方、長い年月の中で培ってきた文化財・自然・歴史などをしっかり後世に伝えていくためには、幅広い分野に携わる学芸員などの人材の確保や育成が課題だと捉えている。
田中会長	会長への就任依頼があった際にも、お願いしているところだが、文献資料に関しても、きちんと整理・公開をしていかなければならない。こういう資料が函館にあるはずだが見れないのか、という話がたまに出てくる。明治から戦前位までの資料でも、経済史の資料としては非常に貴重なものがあるはずなのに所在がなかなか分からず、忸怩たる思いを感じたことがある。私自身も微力ながら協力していきたい。
川嶋副会長	今の学芸員の配置体制は、一般職で入った有資格者が学芸部門に配置される形だが、市役所の規模が小さくなる中で、トータルとしての学芸員機能の弱体化が進んでしまう。採用体制の見直しをしないと、分野の不足が起きてしまい、現状でも、博物館に自然史の担当がおらず、民族とか別分野の職員が兼任している。早いうちに検討した方がいい。町並み、景観の分野でも、所管部署の他に文化財的な価値付けをする所が別にあるという点に違和感を感じる。
生涯学習部長	ここ数年以上、学芸員枠での採用は実施していない。一般職で入った有資格者で、学芸部門を希望する方を中心に担ってもらい、本人の強い希望がなければ、学芸と関係ない部署には異動させずそのまま従事してもらう形でやってきているが、希望者自体が少なくなっている。専門性をもって長く従事してもらうことや、新規採用に限らず経験者を中途採用することなど、色々なことを視野に入れながら、可能性を探っていかなければならないと認識している。

(3) 協議

ア 函館市指定文化財の候補物件等について（非公開）

	《 非公開 》
--	---------

(4) その他

文化財課 文化財担当主査	《 函館市指定文化財候補提案物件一覧を提示 》 市の博物館や図書館が貴重な資料を所蔵しており，そこから指定候補物件を提示するようご意見をいただいていたところであり，今回，委員の皆様のほか図書館と博物館に照会をかけ，その概要をまとめた。このリストについて，そのまま審議に入ることは難しいため，重点的に審議すべきものを候補物件として順位をつけた形でお示ししたい。委員の皆様からもこのリストに対するご意見をいただきたい。また，リスト中の「道南口説節」は保存団体から自薦があったものである。
松崎委員	ざっと見ただけでも，大変なものがある。歴文構想についても，市で検討されていたと思うが，歴文構想と文化財指定をどのようにリンクさせるかという視点についても次回にお話しいただければ全体が見える気がする。 ヘレン・ケラーの模型については，令和4年度の審議会での川嶋委員のご意見にもあった，障がい者教育の歴史という視点も踏まえると，もっと大きな流れになるという気もする。今そこまでの調査を求めるということではないが。
田中会長	他になければ，事務局の方で優先順位をつけるが，委員からも順位付けにつき示唆をいただいて，整理したうえで1月の審議会に向けて調整するという流れでよろしいか。委員から意見聴取するにあたって，書式や期限等はあるか。
文化財課長	書式は定めないので，随時ご意見をいただきたい。
文化財課 文化財担当主査	期限については，次回審議会を来年1月に開催予定であるため，その1か月前までにお知らせいただきたい。
田中会長	他に，ご意見・ご質問はあるか。特にないようので，議事を終了する。これで本日の議事はすべて終了したので，進行を事務局へお返しする。円滑な進行にご協力をいただき，感謝する。

閉会

司会	以上をもって、令和6年度第1回函館市文化財保護審議会を終了する。
----	----------------------------------